

# 防災

SAVE THE LIFE

災害は人ごと、対岸の火事だと思っていませんか。しかし、地震列島、豪雨列島に生きる私たち。いつ起こるか分からない自然災害の驚異を知りつつ、その恐怖にさらされながらも、備えないまままで良いのでしょうか。自分と家族、愛する人の命を守るために、いまできること、すべきことを過去の災害を振り返りながら考えます。



豪雨の氾濫を想定し、6月1日に河川敷合流地点・金田で行われた水防演習。福智町・香春町・糸田町の各消防団、国土交通省、田川地区消防本部から約150人が参加。改良土の工法やシート張り工法を連携して実践し、中村団長が総括指揮、浦田町長が演習本部長を務めた。

## 「う

わぁ、怖いね...。テレビに映る国内外の被災地の様子。

心は痛むけれど、多くの人が「自分の身に降りかかることはない」と客観的に見えています。また、「そんな時が来たら、そんなたい」「どうせみんな死ぬんやから」「防災は行政や消防がやるべき」というあきらめ型や依存型の人も少なくありません。しかし、ミャンマーのサイクロン、中国の四川大地震と、前例や過去の経験から想定できない災害が世界中で発生し、地球温暖化で異常気象も通常化しています。阪神淡路、新潟中越、福岡西方沖も地震とは無縁だった空白地での震災でした。幸い過去に大災害に見舞われていない福智。だからといって決して安心はできないのです。

自然現象は人間の力で止められません。しかし、災害による被害は、「日常の備え」によって最小限に食い止めることができます。大災害では被害が同時多発し、交通網をはじめ電気、ガス、水道といったライフラインが寸断され、救急も消防もマテじ

ます。まずは、ケースに合わせた対策を知ること、災害を想定した危機意識を持つことが、わたしたちの「備え」の基本になります。

